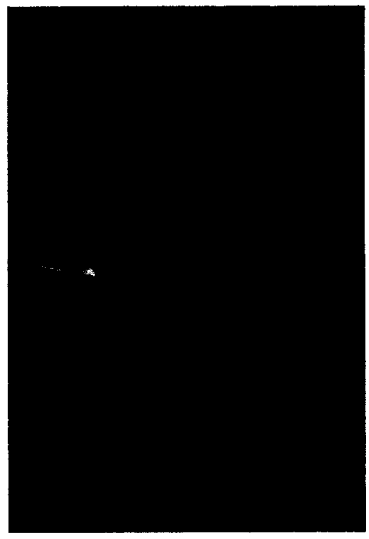
「海鴎（かもめ）」

鎌田　華



春風がふいて、木の緑が美しくなる男鹿半島で、私が海岸を散歩すると美しい白い海鴎を見ることができます。海鴎はなんと美しく白く、なんと可愛いんだろう、よく見ると風が吹き、雨が降っても勇敢に飛び回っている。私に故郷で見た海鴎を思い出させます。私が１７才の時読んだ小説を思い出します。

昔の伝説によると、ある小さな漁村に一組の仲のよい夫婦が住んでいました。男の人は魚をとり、女の人は網を作っていました。ある日、男の人は嵐の中で漁に出かけて死んでしまい、海に沈んでしまいました。女の人は毎日海岸に立って夫を捜し求めていましたが、夫は帰ってきませんでした。時は過ぎ、女の人も亡くなりましたが、女は海鴎になりました。そして海鴎になっても自分の夫を捜して、泣き続けて飛んでいるのです。自分の愛情のすべてを捧げて、嵐の中でも泣きながら飛び続けているのです。

私が海鴎を見ると、故郷の伝説の夫婦のすばらしい愛情を思い出すのです。１７才の頃を思い出すと、今でも涙が出ます。